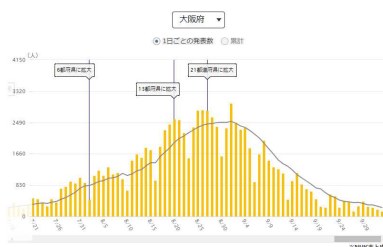


## 社 報



## 外資系企業の働き方 (1)

## 緊急事態宣言買解除



新規感染者の数が、大幅に減少してきました。良い傾向ですが、リバウンドする可能性が高いと、言われています。

**手洗い・消毒・マスク・密の回避**  
引き続き、よろしくお願いします。



## ——ネットからの抜粋です——

これまで日本人は勤勉な国民だと言われてきた。朝から晩までよく働く。これは以前より多くの外国人から指摘されてきたことだ。日本人は残業も長いし、休暇もとらない。

一方で外国人、特に西洋人と呼ばれる人たちは、家族を大切に、休暇はきちんととる。いつまでも会社に残ることもなく、定時に帰る。このような反省にたって今、日本社会では「働き方改革」なる大運動が推進されている。

以前のように上司が残業など命じようものならパワハラ汚名を着せられ、悪くするとその上司は叱責や降格処分になりかねない。休暇についても以前よりもはるかに取得しやすくなったというのが、最近の企業社会の実態ではないだろうか。

私は大学を卒業して勤めた銀行をわずか3年で辞め、外資系コンサルティングファームに転職をした。

外資系であっても当然、入社時には会社の様々なルールや制度の説明を受ける。それは当時の私にとってはとても新鮮かつ魅力的な内容だった。特に次の3点はそれまでの日本の会社では

考えられないものだった。

- ・残業という概念はない(年俸制)
- ・いつ会社に来ててもよい、来なくてもよい
- ・休暇は好きなときにとってよい。

暇ならどんなにとってもかまわない  
当時の私が感じたのは、「なんてバラ色の会社に入ったことだろう。朝はどんなに寝坊してもよい、好きな時間帯に働いてよい、休暇は時期も期間も自由、年俸制もなんだかおしゃれでかっこいい」というものだった。

ところが、私はその後3年間ほどこの外資系コンサルティングファームにお世話になったが、結論から言えば長期の休暇なんてとんでもない、毎晩深夜まで残業の連続だった。つまり、年俸制なので自分の時給はどんどん減った。朝は早朝からブレッグファーストミーティング。一つのプロジェクトが終わってもさらに次のプロジェクトに加わる。結局、プロジェクト単位で働く社員にとっては、プロジェクトごとの「隙間」がないかぎり、休暇なんて夢のまた夢なのだった。プロジェクトが立ち上がって社内チームを結成する時に、「お呼び」がかからないことには「クビ」、ということになる。

(続く)

## くれぐれも安全運転で！

現場の労働災害も、通勤車両の交通事故も減少傾向が持続しています。これも日々、仕事に運転に努力をいただいている結果です。今月の清水建設様の安全会議にて、通勤車両が事故を起こして、同乗者を含めて5名の方が怪我をする事例が発表されていました。

当社の通勤車両には、最大で10名近くの搭乗者数になります。運転者は多くの命を預かっている認識を強く持って安全運転に努めてください。同乗者の方達も、運転者の運転を見守りながら、安全を意識して、運転者を気遣いましょう。今月も事故がありませんように。(拝)

## 2021年 安全成績

■現場災害 2021.1.1-10.4	
休業災害	----- 0
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 0
■交通災害 2021.1.1-10.4	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 1
合計	----- 1